

<ことばのビルを建てましょう>

子どもの発達とことば

ことばは全体発達の一部：全体発達にともなって、
ことばの力、ことばの基礎となる力が育つ

ことばはビルの最上階

ことばが言える言えないにとらわれず、子供の中のほんとうのことばの力(場面が変わっても発揮でき、応用がきき、豊かに広がる可能性を秘める)を育てる。

「言ってごらん」と促して言える10個のことばと、自分から場面に即して言える2個のことばの二本立てで。

ことば

ことばがわかる

構音器官の
訓練



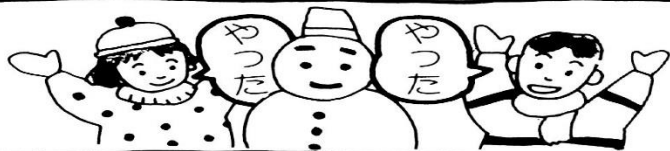
ことばを教える



実物にことばをそえる 経験にことばをそえる 理解をすすめる

聴く力を育てる

ことばで
わかり合う



共感のことば
を多く

豊かな体験・経験



楽しくあそぶ

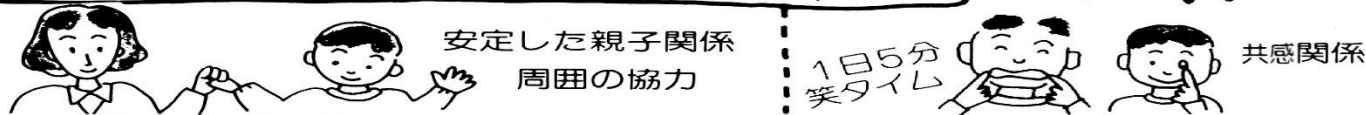
感覚統合



手を使う



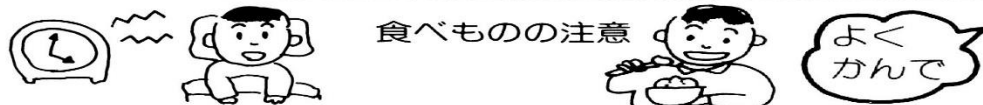
情緒の発達



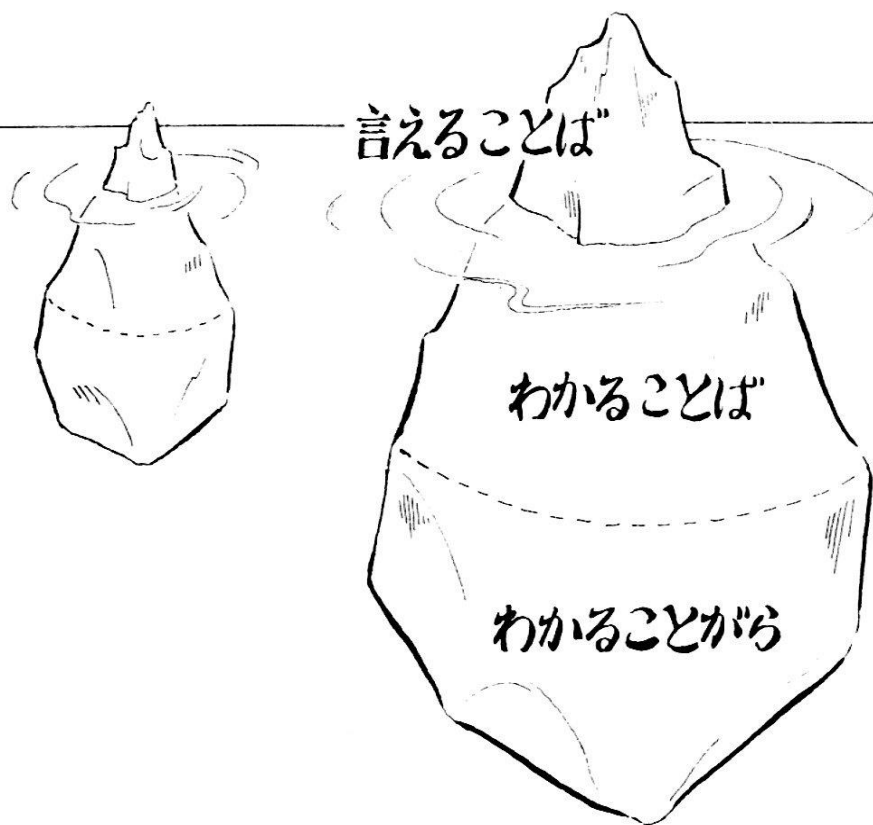
体の発達にそった
十分な運動



規則正しい生活



わかることから、わかることばを増やす



ことばの表出

「ジュース」と言う

ことばの理解

「ジュース飲む？」とたずねると
うなづく

ことばに関連した体験・行動

「ジュースを飲む」という行動

「わかることば」を増やしましょう

「わかることば」を増やすための留意点

① 経験を増やすことを意識的に。

障がい児にとっての「経験」は意識的に、回数を重ね、子どもにとってわかりやすいやり方を工夫しながら積み重ねていくことが大切。

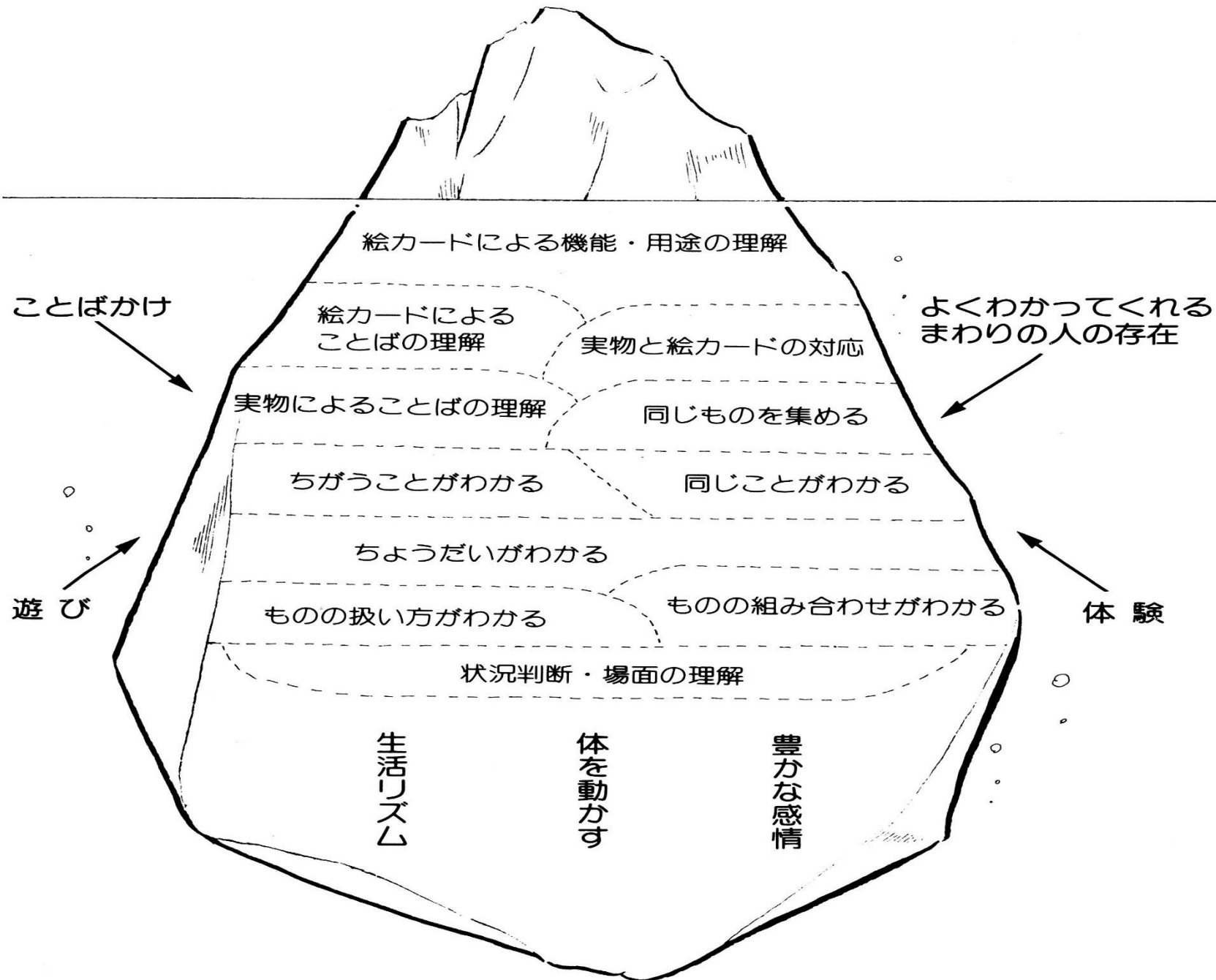
② 実体験に即して、ことばをかけること

何かの体験を重ねるたびに、こまめにことばをかける。子どもの興味や気持ちを読み取り、子どもの気持ちになりながら、ことばを分け合うつもりで。

言語理解の発達を進めるプログラム

- ①状況判断、場面の全体的理解
- ②ものの扱い方がわかる
- ③ものの組み合わせがわかる
- ④身ぶりによる「ちょうだい」などの理解
- ⑤「ちがう」ことがわかる
- ⑥「おなじ」ものを集める
- ⑦実物によることばの理解
- ⑧実物と絵カードの対応
- ⑨絵カードによることばの理解
- ⑩絵カードによる機能、用途の理解

- ・全体発達を促す働きかけ(毎日の暮らしをしっかりと積み上げる)と同時に行われた時に、はじめて効果をあらわす。
- ・細かい順序や、教材の工夫は、それぞれの子どもに合わせて変化させる。
- ・教えられたことの中身を、実生活と結びつけながら自分の中にとりこんでいけるような豊かな環境づくり、土台づくりを決して忘れない。



絵カードによる機能・用途の理解

絵カードによる
ことばの理解

実物と絵カードの対応

よくわかってくれる
まわりの人の存在

ことばかけ

実物によることばの理解

同じものを集める

ちがうことがわかる

同じことがわかる

遊ぶ

ちようだいがわかる

ものの扱い方がわかる

ものの組み合わせがわかる

体験

状況判断・場面の理解

生活リズム

体を動かす

豊かな感情

(5)ことばの力が生きる時

ことばに期待する役割

ことばを使うことによって、他の人とわかり合い、結び合えること、毎日の暮らしをより安定して過ごせるようになること、ことばによってできることがらが増えていくこと。

実生活に即して、経験を重ねながら、応用のできることばを獲得すること



口で言うのは簡単

気持ちを分け合い、子どもに学びながら一緒に歩き続けていると、いつかことばの力が本当に生きる時がくるのかもしれない。そう信じて毎日の暮らしを着実に積み重ね、可能性を信じて努力しましょう。

参考文献

「ことばをはぐくむ」

著者：中川信子 発行所：ぶどう社